がんは早期発見・早期治療が鍵
無料でがん検診が受けられます

9月はがん征圧月間・健康増進普及月間です。日頃から病気になりにくい生活を心掛けるとともに、病気の早期発見・早期治療のために、定期的に検診を受けましょう。

問い合わせは　がん検診については　健康増進課　☎027－220－5784
健康まえばし21・いきいき健康教室・まえばしウエルネス企業については　同課　☎027－220－5708

■生活習慣を改善してがんを防ぐ

がんは生活習慣病の一つです。受動喫煙を含む喫煙や過剰飲酒、肥満、野菜・果物の摂取不足、運動不足などの生活習慣が、発症のリスクを高めます。健康なときから生活習慣を見直せば、がんや生活習慣病を防ぐこともできます。また、不治の病であったがんも、早期発見・早期治療を行えば、治る確率が高くなりました。早期のがんは自覚症状がないことが多いため、定期的にがん検診を受けましょう。

10月から胸部集団検診が始まります

10月から各市民サービスセンターなどで、「胸部（結核・肺がん）集団検診」が始まります。予約は必要ありません。詳しくは受診シールに同封したチラシや本市ホームページをご覧ください。

期日・会場＝左表のとおり

受付時間＝〈平日〉午前9時30分～11時〈土日曜〉午前8時30分～11時

対象＝40歳以上で本年度未受診の人

用意する物＝受診シール

胸部（結核・肺がん）集団検診

期日	会場
10月1日(水)	水道局
10月2日(木)	総合福祉会館
10月3日(金)	元総社市民サービスセンター
10月7日(火)	東市民サービスセンター
10月8日(水)	上川淵市民サービスセンター
10月9日(木)	城南支所
10月15日(水)	南橘市民サービスセンター
10月16日(木)	永明市民サービスセンター
10月17日(金)	総社市民サービスセンター
10月19日(日)	県健康づくり財団（堀之下町）
10月26日(日)	県健康づくり財団（堀之下町）

※10月19日(日)・26日(日)は、特定健診、後期高齢者健診、健康増進健診、肝炎ウイルス検診、前立腺がん検診も受けられます。
※10月26日(日)は、乳がん検診と子宮頸がん検診も受けられます。受付時間は午後1～2時。乳がん検診は予約が必要です。希望者は託児ができます。

皆さんの健康づくりをお手伝い

●いきいき健康教室を開催

保健師や管理栄養士、歯科衛生士が、あなたのまちや会社、学校などへ出向き、無料で健康教室を開催します。

●まえばしウエルネス企業を募集

本市では企業と連携して健康づくりを推進しています。従業員や家族の健康づくりに取り組む企業を「まえばしウエルネス企業」として登録します。登録されると、いきいき健康教室の利用や、最新の健康情報を掲載した情報誌を受け取ることができます。詳しくは本市ホームページをご覧ください。

第２次健康増進計画

健康増進計画「健康まえばし21（第2次）」を策定。この計画では、健康寿命の延伸や、健康格差の縮小を目指し、地域の皆さんと連携して、健康なまちづくりを推進していきます。いつまでも若々しく健康であるために、年齢に応じた健康づくりをしましょう。

前橋学 市民学芸員 養成講座

MAEBASHIGAKU SHIMINGAKUGEIIN YOUSEIKOUZA

前橋市の歴史文化遺産を活用した地域づくりの担い手となる「前橋学市民学芸員」養成講座（第1期）を11月まで開催中。このコーナーでは、すでに開催された講座内容の一部を紹介します。第2期は来年1月に開講予定。詳細は決まり次第お知らせします。

問い合わせは
文化国際課　☎027-898-6992

第6回テーマ　殿様が語る松平大和守家

講師　松平家当主・松平直泰さん

前橋藩主・松平氏は、徳川家康の次男秀康の5男直基を祖とし、代々大和守を称しました。初代・直基は勝山、越前大野、出羽山形を経て、姫路15万石を有しました。2代・直矩は姫路より越後村上、豊後日田、出羽山形、奥州白河に移り、4代・明矩は再度姫路へ。そして5代・朝矩のときに前橋藩主になりました（1749年）。

しかし、利根川の洪水による城の崩壊のため朝矩は川越に移り、その後、11代までの約100年間、前橋は川越藩の分領でした。ただし、代々の藩主は前橋への帰城を望んでいました。

11代・直克は横浜開港による生糸貿易で巨万の富を得た前橋商人らの資金で前橋城を再建。前橋帰城がかないました。しかし、間もなく廃藩置県により松平氏が治める時代は終わりました。

その後、松平家は12代・直方、13代・基則、14代・直之、15代・直冨、16代・直正と続き、現在は17代・直泰さんが当主です。直泰さんは昭和49年、当時の藤井精一市長の勧めで前橋市民となりました。

松平家と前橋の歴史を語る直泰さん

第7回テーマ　前橋空襲と復興

講師　歴史文化活用委員会委員・原田恒弘さん

昭和20年に入り米軍機による日本本土への空襲が激しくなると、前橋市内ではさまざまな空襲対策が実施されました。公共防空壕の設置や防空演習のほか、空襲による火災の延焼を防ぐため、前橋駅や市役所周辺、広瀬川河畔などで建物の強制撤去が行われました。また、市民の疎開が多く行われるようになり、当時の人口調査によると昭和19年1月から昭和20年11月までの間に1万2，179人減少しました。

8月5日の空襲では、死者535人、負傷者600人以上に上りました。また、当時の市街地戸数2万871戸のうち、全焼1万1，460戸、半焼58戸、人口9万3，131人のうち、被災人口は6万738人でした。遺体の多くは損傷が著しく、遺族による判別や引き渡しに手間取り、その間の腐敗により見るに堪えない状態でした。

空襲翌日には近隣の旧村による食料の炊き出しが行われました。また、衣料などの配給は行われていましたが、十分な量ではありませんでした。

被災地の復興は女性の働きから始まりました。男性たちの戦死や戦傷により働き手が不足していたため、女性が中心となり、自宅や近所のがれきの片付けを行いました。

「花燃ゆ」放映決定記念企画

あなたの疑問に答えます！

平成27年NHK大河ドラマ「花燃ゆ」は、吉田松陰の妹で、初代群馬県令・楫取素彦の妻となる文が主人公です。このコーナーでは、「花燃ゆ」に関する皆さんの疑問に答えます。

Q.文の最初の夫である久坂玄瑞から送られた手紙「涙袖帖」とは何ですか？

A.文が最初に結婚した久坂玄瑞との結婚生活は、約7年。幕末の戦乱の中、二人は手紙を交わすことで夫婦としての絆を深めていきました。その後、久坂が亡くなってからも、文は久坂からの手紙を大切にしていました。

文は、40歳のとき、楫取素彦と再婚しますが、それらの手紙を持って前橋に嫁ぎました。文の前夫からの手紙ではありますが、楫取にとって、久坂玄瑞は義弟であり、同じ時代を生き抜いた同士。手紙を読んだ楫取は、大変感動したそうです。そして、その手紙を表具屋で巻物にし、巻物の箱には、「涙袖帖」と記して、夫婦で大切に持っていたそうです。

涙袖帖は、全部で3巻でしたが、太平洋戦争中の空襲で失われ、現在は楫取家に1巻のみが残っています。